［生　活］

小学校入門期における児童の気付きの質を高める学習活動

－飼育動物を主人公にして、気持ちを想像しながらお話をつくる活動の有効性に関する一考察－

宮園　初枝*

1　主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年３月告示）において，生活科の改善の基本方針の１つとして，「気付きの質を高め，活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する」ことが示された。内容の項目(7)では，「動物を飼ったり植物を育てたりして，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にできるようにする」と示されている。

筆者は，これまでの生活科の実践において，動物の飼育を継続的に行い，児童が動物の生命や成長などに気付き，愛着を持ってかかわれるように活動を構想し，指導してきた。しかし，児童の気付きが質的にどう変化したかをとらえたり，気付きの質が高まるような活動を意図的に設定したりしてきたとは言い難い。

柳澤（2009）は，内藤博愛（2006），朝倉淳（2008），宮本千鳥（2008）などの先行実践や研究等から，気付きの質が高まっていく段階について，諸感覚を働かせて得た気付きは，「比較，関係付け，理由付けなどの思考を通して，他と関係づけられた気付きとなり，それらがさらに統合されて，一般化の方向に向かう」とし，表１のように整理している。そして，研究協力校における実践を通して，体験，振り返り（表現，交流）を繰り返す学習活動を展開することが児童の気付きの質を高める上で有効であることを明らかにした。一方で，気付きの各階層における人数を分析する中で「想定以上に情緒を伴う気付きや動物の気持ちを考えた気付きが多かった。それは，児童と動物との距離が縮まったためだと考えられる」という見解を示している。この「想定以上に情緒を伴う気付きや動物の気持ちを考えた気付きが多かった」という点は，筆者も過去の実践を振り返って共感できる点である。１年生が動物と出会いかかわる場面で，児童は無意識に動物を「さん付け」で呼ぶことがある。対象を「〇〇さん」と呼ぶ時，それは児童にとって意味のある存在になっていると考える。餌を一生懸命食べる様子を見て，「お腹がすいているのかな。」とつぶやく。動物とのかかわりが深まると，ちょっとした変化にも気付き，元気がない時や鳴き声がいつもと違う時は，自分のことのように心配したり，やさしく声をかけたり，なでたりする。繰り返しかかわり，児童と動物との距離が縮まり関係が深まるにつれ，動物に対する愛着が増し，動物の気持ちを具体的に想像することができるようになる。言い換えれば，動物の立場に立った見方や考え方ができるようになる。また，動物の気持ちを想像し，動物の立場に立った見方や考え方をすることで，新たな発見や気付きが生まれたり，気付きの質が高まったりするのではないかと考える。このようなことから，児童の気付きの質を高める思考の一つとして，対象の立場に立った見方や考え方をして思い描く（想像する）ことが重要と考え，主題を設定した。

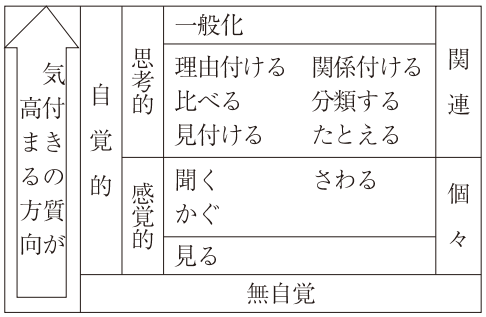


表１　気付きの質の高まり（柳澤）

2　研究の目的

本研究は，「想像する」という思考に焦点をあて，「想像する」ことによって気付きの質が高まることの有効性を明らかにする。

＊ 十日町市立田沢小学校

3　研究の方法

(1)　気付きの質の高まりについての先行研究と文献調査
(2)　問題の把握と課題設定
(3)　年間を通した授業実践による気付きの質の変化について検証
(4)　考察

4　実践

(1)　単元名「にわとりさんとなかよし」

(2)　学習材の価値（学習材の価値については，柳澤が示した４つの視点をもとに，検討した。）

生活性	外見や鳴き声，ユーモラスな動きは子どもの心をとらえる。生まれたばかりの小さなヒヨコから飼育することで，愛着が芽生え，相手意識が育ち，自分とのかかわりで気持ちが動く。
活動性	餌やりや掃除など継続した飼育が必要である。ヒヨコは短期間でその外見を大きく変化させる。継続した飼育や繰り返しかかわることにより羽毛，鶏冠，爪の発声，鳴き声の変化，産卵など，体の変化を成長の様子としてとらえやすい。
本質性	自分と比較して考えることができる。ニワトリのぬくもりや動き，やわらかさや力強さを肌で感じ，生命を実感できる。
発展性	第２学年の昆虫等の飼育や理科の「動物の動きや体のつくり」への発展が期待できる。うまれた卵を素材とした活動は多様性があり，今後，家庭科や図工などで生かせることができる。

(3)　単元の構想　※①～⑧の番号は，「(4)　指導の実際」の番号

月	小単元名	月	小単元名
4	○ようこそひよこさん→①	9	○にわとりさんと遊ぼう
5	○歓迎の式を開こう		○にわとりさんのお話を作ろう→④～⑦
	○おうちを作ろう　○お世話の仕方を考えよう		・「夏休みの成長」④　・「水遊び」⑤
	○どんどん大きくなるよ→②	10	・「冒険ごっこ」⑥　・「レストランごっこ」⑦
6	○養鶏所へ行こう		○にわとりさんありがとう祭りを開こう
	○鶏小屋をたてよう	11	（卵料理，にわとりさんクイズ，作ったお話紹介等）
	○ひよこさんのお引っ越し → ③		○にわとりさんさようなら
	○ひよこさんの秘密調べ → ③	12	○成長を比べよう
	○伝えたいひよこさんのこと（出身保育園，幼稚園へ）	1～3	○活動のまとめをしよう
7	○Ｘデーは，いつかな（産卵日の予想）		

(4)　指導の実際と考察

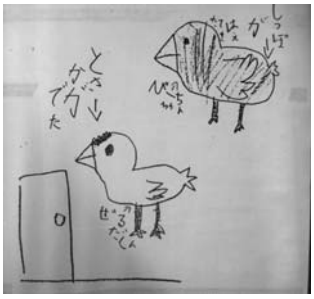
児童が体験した後，すぐに書く活動を行うようにした。児童の表現の中で，変化が顕著に表れているつぶやき，絵，作文，児童がつくったお話などを継続的に記録し，子ども自身の表現の仕方（具体的には，発する言葉や文，絵など）から，変容を読み取っていく。その際，柳澤の気付きの質の高まりの内容と対応させる。

①　ようこそ　ひよこさん～４月　ヒヨコ６羽と出会い，遊ぶ～

〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	体の色：黄色と茶色　目：まるい　口：とがっている　羽：黄色と茶色　足：２本　指：４本
	聞く	鳴き声：ピヨピヨ，ピイピイ
	さわる	羽：ふわふわしている　からだ：ふにゃふにゃしている，あまりじょうぶじゃない，温かい

②　どんどん大きくなるよ～５月上旬　ヒヨコに「とさか」が生える～



〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	頭：赤いものが生えてきた　首：よく伸びる　尾：しっぽが生えてきた 羽：大きくなってきた　足：少し太くなってきた　糞：家がうんちでいっぱい 行動：少し走る，高いところにのぼる
	さわる	からだ：じょうぶになってきた
思考的	比べる	鶏冠：オスに生えてきた，オスの方が成長が早いのかな 羽：黄色のヒヨコは白くなってきた，茶色のヒヨコは変わらない

【①から②への気付きの変容】ヒヨコと出会い，ヒヨコとの１対１でかかわる初期の段階では，見る，聞くことによって得る気付きや，触れるなど，直接的なかかわりを通して見えてくる実感を伴った気付きが生起している。また，ヒヨコに鶏冠や尻尾が生えてくるなど，成長の変化が現れてくると，出会った頃のヒヨコとの違い，雄と雌の成長の違いなどに気付く児童が現れ始めた。過去と現在のヒヨコ，雄と雌，ヒヨコ同士などを比較した気付き，羽の大きさ，首の伸び方，ジャンプの高さなど，全体から部分に注目することで得る気付きなど，気付きの質的な変化が見られた。

③　**ひよこさんのお引っ越し，ひよこさんの秘密調べ～５月中旬**　段ボールの部屋から広いニワトリ小屋へ～

〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	羽：大きくなって，すごく広がる　足：しま模様がはっきりしてきた，太くなってきた　尾：長くなってきた つめ：するどい，とがっている　鶏冠：赤くなった　行動：いっぱい走り回る，羽を広げてバタバタ走り回る，足が速い
	聞く	鳴き声：「コケッ」「コケコー」「コーコーコーコー」となくようになってきた
	さわる	蹴る：抱くとキックしてくる，足をバタバタさせる　抱く：おとなしくなる，寝てしまう 行動：ジャンプして肩にのる，つめがあたる
思考的	見付ける	目：目の中は金色　耳：目の斜め下にある　毛：羽の裏側は少ない　鶏冠：前だけついている 餌：草や野菜，笹の葉，バナナやミミズも食べた，キャベツやキュウリが大好き 行動：一羽が動くとみんなつられて動く，まっすぐに走らない，カラスに近づかない
	比べる	尾：メスの方が長いみたい，オスにはしっぽがない　羽：羽の色が一羽ずつちがう 鶏冠：茶色のヒヨコは，あまり鶏冠が生えないみたい　行動：つかまえるのが大変になってきた 性格：いじわるで他のヒヨコさんを踏む　餌：細かく刻んであげるとよく食べる
	理由付ける	食べ方：ミミズをくわえると，どっかに持っていって食べる　とられないようにしているみたい 餌：草も野菜もミミズも食べる，何でも食べるみたい

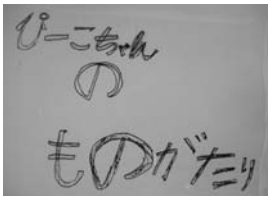
【②から③への気付きの変容】室内の段ボールの部屋から屋外の広く開放的なニワトリ小屋へ移ることで，児童はヒヨコの動きの著しい変化を感じ取ることができた。児童のつぶやきやシートの記述で多かったのが，「たくさん走れるようになってよかったね。」「ひよこさんが喜んでいるよ。」など対象の気持ちを想像した内容である。吹き出しにヒヨコの気持ちを想像して書き加える児童も現れ，対象の気持ちに寄り添った気付きが生起していることが分かる。「ひよこさんの秘密調べ」では，自分のお気に入りのニワトリに密着して，他の友達が気付かないような秘密を探そうと努力した。「これまで気付かなかったこと」「いつもと違う様子」「新たな成長」等，ヒヨコがニワトリへと変化している様子を具体的にとらえることができた。特に，全体的，部分的な気付きから，爪や毛など注意して観察しないと分からないような細部の変化にまで気付くことができた。「目の中をよく見ると金色」や「目の斜め下に耳があった」など，今まで明確でなかったことを意識的に見付けることができた。餌の秘密を調べる中で，ニワトリに生きているミミズを食べさせた児童がいた。野菜や草だけでなく，ミミズも喜んで食べたことから，ヒヨコは何でも食べるみたいと予想するなど，「～だから，～みたい」と理由付けて考える児童も現れた。

【２学期　ニワトリの成長とお話づくりについて】９月に入り，１か月ぶりにニワトリと遊んだ。８月下旬に初めて産卵し，ヒヨコは成熟したニワトリへと変化した。一回り体格も大きくなり，鳴き声も動きも力強くなった。食べる餌の量や種類も増えた。児童は，諸感覚を通して成長の様子や１学期との違いをとらえることができた。しかし，中には，大きく成長したニワトリに近づいたり抱いたりすることをためらう児童も見られた。そこで，児童とニワトリとの関係を修復し，深めていくこともねらいながら，ニワトリさんにも夏休みをプレゼントしようという提案をし，様々なごっこ遊びを児童と計画した。また，活動後，記録したシートをもとに，ニワトリを主人公にしたお話づくりにも挑戦した。ニワトリの気持ちを想像することで，新たな気付きが生まれることを期待した。

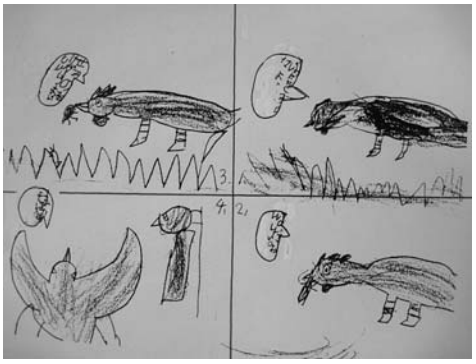
④　**にわとりさんのお話をつくろう～９月上旬**　２学期最初の生活科　夏休み後のニワトリの変化を見付ける～

〈児童のつぶやき〉「何か重くなったな。」「卵を産んだ。他のニワトリも卵を産みそうだよ。」「バッタを捕まえて，食べたよ。」

〈９月上旬　ニワトリの成長をお話にする。～紙芝居ふう～〉



〈9月中旬　ニワトリを主人公にしたお話を作る～四コマ漫画ふう～〉



1「バッタを見付けたよ。」　2「バッタはおいしいな。」
3「せみの抜け殻もおいしいな。」　4「また，遊ぼう。」

ニワトリがバッタやセミの抜け殻を喜んで食べたことをお話にした。自分が経験したことをそのままお話にするのではなく，ニワトリを主人公にして，脚色を付けてお話にできた。

バッタやせみの抜け殻を食べたことから，ニワトリは，野菜も虫も抜け殻なども，何でも食べるという気付きを確信していく。

〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	からだ：大きくなった　腹：膨らんでいる　鶏冠：あごにも生えた，走ると揺れる　つめ：大きい，するどくなった
	聞く	鳴き声：力強くなった，遠くまで鳴き声がひびく，大きくはっきり鳴くようになった
	さわる	からだ：重くなった，抱くのが大変になった，抱いても足をバタバタさせてすぐに逃げる　つめ：あたると痛い，ひっかく
思考的	見付ける	食べ方：くちばしの先でつんつんつついて虫をつかまえて，つまんで食べた
	たとえる	口：くちばしは，箸みたい。小さいものを上手につまむ
	比べる	餌：ニワトリになったら，生きたバッタやセミの抜け殻も食べるようになった
	理由付ける 一般化	餌：生きたバッタやセミの抜け殻も食べた，やっぱりにわとりさんは，何でも食べる 食べ方：ニワトリは，他のニワトリが餌を見付けると，一斉に集まってくる　バッタをくわえると，誰もいないところに持っていって食べる，横取りされないようにしている　食べると，仲間のところへ戻ってくる

【③から④への気付きの変容】ヒヨコの頃は，刻んだ餌しか食べなかったのに，生きたバッタを自分でつかまえて食べることができるようになったことに児童は気付き，表現した。特に，④の4コマ漫画の最後の場面でニワトリの友達が登場することについて児童に質問すると，「ニワトリは，バッタをくわえるとどっかに持っていって食べるよ。でも，食べ終わると仲間のところに戻って来るから。」と答えた。児童は，以前，ニワトリに捕まえたバッタを与えた時，一斉にニワトリが寄ってくることに驚いたことを教えてくれた。「ニワトリは，仲間に餌を横取りされるのが嫌なんだよ。」などの発言から鳥の習性について気付いていることが分かる。また，他の児童の作品からは，「くちばしはニワトリの箸みたいです。小さいものも上手につかめるよ。」など，自分の生活と関連させた気付きも見られた。

⑤　9月下旬　水遊びをしてかかわりを深める～気持ちを想像して，作文シートやお話を書く～

〈作文シート〉にわとりが，「つめたくってきもちいいよ。」っていってるよ。にわとりがみずのなかでたまごがでるかなってしんぱいだったよ。はねにみずをかけたら，びっくりしたよ。

産卵期を迎えたニワトリの体を気遣って，水遊びをした。水に触れたニワトリの気持ちや一緒に遊んだ時の自分の気持ちを書くことができた。

〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	行動：ビート板の上にのせると，じっとしている
	さわる	行動：抱っこして足に水をかけてあげると，じっとしている　体：心臓がドキドキしていた
思考的	理由付ける	行動：体（羽）がぬれると，逃げた　水が嫌いみたい 行動：風が拭いたら，鶏小屋に逃げた　風も嫌いみたい
	一般化	ニワトリは，泳がないね

【④から⑤への気付きの変容】ニワトリと水遊びごっこをする際，「ニワトリの気持ちをシートに書いてから，お話をつくるよ。」と投げかけた。児童のつぶやきやシートの内容を分析すると，ニワトリの様子から「じっとしているときは喜んでいる」「逃げるときは嫌がっている」と判断し，気持ちを考えながらかかわっていることが分かる。ニワトリの行動から，「体（羽）が水で濡れること」「風が吹いて当たること」が嫌であることに気付いた。また，逃げるときは，必ず鶏小屋へ走っていくことから，鶏小屋は，ニワトリにとって特別な場所であることにも気付き始めている。

⑥　9月下旬　冒険ごっこをする～ニワトリの様子から気持ちを想像して，お話をつくる～

〈作文シート〉ぜるだがなんかいもにげました。そして，はこにはいったら，おとなしかったです。以後，略

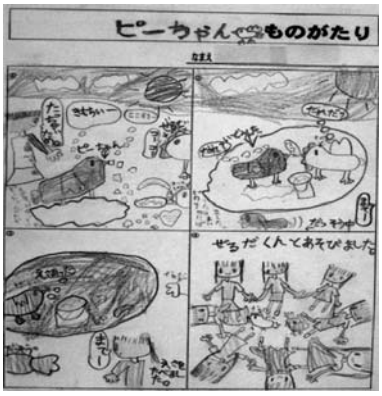
〈つくったお話〉ある日のことです。ぜるだくんがにげました。「つかまらないぞ。」どんどんにげます。またまたにげます。おいかけても，つかまりません。やっと，おうちにはいりました。

ニワトリが何回も逃げて大変だったことを作文シートに記録した。逃げるニワトリの様子から気持ちを想像し，お話をつくった。

〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	行動：足が速い，時々ジャンプして逃げる　小屋に入るときも，ちょっとジャンプした
	見付ける	行動：にわとりは，追いかけると逃げる　まっすぐ走らない　トンボや変な虫も食べた
思考的	理由付ける 一般化	行動：自分の家に向かって逃げる，段ボールのおうちに入るとおとなしくなる，安心するみたい 行動：逃げるとつかまえるのが大変，つかまるのが嫌なんだ 行動：一羽のにわとりが脱走すると，他のにわとりもみんな脱走する，ニワトリは，仲間のまねをして逃げる

⑦　10月上旬　レストランごっこをする～ニワトリとのかかわりから想像を広げ，お話をつくる～



〈児童がつくったお話〉「ピーちゃんのものがたり」

1　ある日のことです。ピーちゃんが，レストランでお食事をしていました。遠くから「コーコー」という鳴き声が聞こえてきました。

2　ピーちゃんが大好物のえさをくわえると，新しいお客さんがやってきて，ピーちゃんのえさを横取りしようとしました。「だれ？」と思いました。

3　お客さんは，ピーちゃんのえさをくわえると脱走してしまいました。心配して入れ物を見ると，まだえさが残っていたので，みんな食べました。

4　おなかがいっぱいになったので，みんなで一緒に遊びました。

ニワトリの習性をとらえながら，楽しいストーリーを考えた。

※空想のお話づくりの活動が，本単元の表現活動の集大成に位置する。

〈つぶやきやシートの記述から〉

感覚的	見る	行動：ニワトリは，みんなが持ってきた餌を全部足でけとばした　横取りするにわとりもいた
	さわる	行動：抱っこして食べさせるとおとなしい，少し食べてくれた
思考的	見付ける	行動：お腹がいっぱいになると，すぐ脱走する
	比較	餌：プリンやバナナも食べた，キュウリ，キャベツ，ミミズは人気がある
	理由付ける 一般化	餌：なっぱがカサカサにかわいていたので食べてくれなかった，新鮮な野菜が大好き 行動：ミミズにニワトリが一斉に寄ってきた，ミミズをくわえると逃げた 他の動物：カラスは友達のリンゴを持っていった，鳥はみんな，餌をどっかに持っていって食べるみたい 行動：鳥は，近づくと逃げる

【⑤から⑥⑦への気付きの変容】児童がつくったお話を繰り返し交流することで，「もっとおもしろいお話をつくりたい」という意欲が児童一人一人に高まってきた。おもしろい話を作りたいから，新しい発見，気付きが生まれるようなごっこ遊びを児童自ら工夫する姿が見られるようになった。さらに，ニワトリの気持ちを想像しながら活動することで，ニワトリとの距離が縮まり，ニワトリに対する見方や考え方にも深まりが感じられるようになった。児童の気付きを分析すると，「見る」「さわる」などの感覚的な気付きよりも，意識的に「見付ける」ことで獲得する気付きや「～だから～みたい」「～だから～だ」（理由付ける，一般化）といったより質的に高い気付きを多く獲得していることが分かる。⑥の活動後のシートには，「ニワトリは，足が速い。」「追いかけると，どんどん逃げる。」「なかなかつかまえられない。」「自分の家に向かって逃げる。小屋にすぐ入る。」という記述が目立つ。「どうして，ニワトリは逃げるのかな？」と聞くと，「だっこが嫌なのかな。」「つかまりたくないからだよ。近づいただけで，すぐ逃げちゃうよ。」「鳥はみんなそうだよ。カラスやスズメと同じじゃない？」と鳥の習性について気付いている。また，すぐ小屋に逃げてしまうことについて

も，「自分の家だから安心なんだよ。」「よく僕のお母さんも家が一番いいっていうよ。」「仲間といると安心だしね。」と自分の生活と関連づけて考えることができた。「レストランごっこ」では，カラスもニワトリに混じって餌を食べに来た。近寄ると逃げること，餌をくわえると，誰もいないところに逃げることから，鳥の習性を再確認する児童もいた。

5　成果と今後の課題

⑴　成果

ヒヨコとの出会いから秘密探し（①～③）までは，柳澤の研究の考察と同様に，気付きが質的に高まっていく児童の姿をとらえることができた。ニワトリを主人公にしたお話づくりの活動（④～⑦）においては，対象の気持ちを想像し，対象の立場に立って活動し，繰り返し対象とかかわっていくことを通して，「水を嫌う」「逃げ足が速い」「とられないように餌を食べる」「仲間と共に行動する」「安全なすみかが必要である」などの行動を具体的にとらえることができた。また，それらを他の動物の行動との比較や自分の生活と関連させ，動物の習性や敵から身を守る知恵であること等，気付きの質を高めていった。また，④から⑦の活動では，「ニワトリと遊ぶ→気付きを記録する→お話をつくる→紹介し合う」といった一連の活動を４回繰り返した。お話を作って紹介する活動を繰り返すことで，友達からの評価やおもしろい作品に刺激を受け，だんだん読み手の反応を意識したお話を作るようになった。特に，お話のもととなるニワトリと遊ぶ活動場面で，児童はニワトリに寄り添い，その行動やしぐさ，習性をよく観察し，気持ちを想像しながら活動したり，楽しいお話をつくるために，遊びそのものを自ら工夫したりできるようになっていった。

このように，ニワトリを主人公にしたお話作りを繰り返すことにより，児童は，ニワトリに対する関心を高め，これまで獲得してきた気付きを再確認するとともに，「～だから～みたい」といった気付きをより「～だから～だ」と確かなものにすることができた。また，お話づくりを目的として，ニワトリに寄り添い，ニワトリの気持ちを想像しながら活動することにより，児童とニワトリの距離が縮まり，次第にニワトリの気持ちを考えた行動ができるようになっていった。そして，それに伴い，ニワトリに対する見方や考え方が広がり，気付きが質的に高まっていく児童の姿をとらえることができた。このようなことから，１年生の生活科において飼育動物を主人公にして，気持ちを想像しながらお話を作る活動は，児童の気付きを質的に高める上で有効であることが分かった。そこで，筆者は表１の柳澤案を修正し，気付きの質の高まりを表２のように整理した。

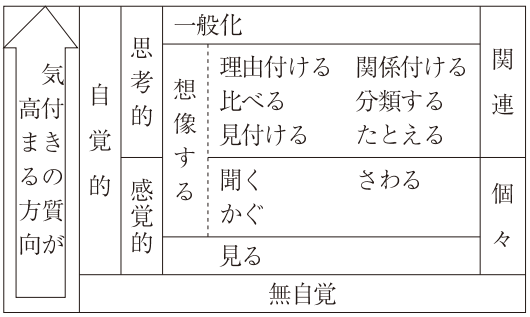


表２　気付きの質の高まり（宮園 案）

⑵　今後の課題

・単元を構想し，活動をスタートさせる前に，各活動における気付きの質の高まりについて，期待する児童の気付きの内容を想定しておくと，気付きの質の変化がとらえやすく，評価するときに役立つと考える。
・飼育動物を主人公にしたお話づくりの活動では，作文シートや作ったお話の内容だけでは，その児童の気付きの全てを見取ることは難しい。実際に飼育動物とどのようにかかわり，活動の中でどのような言葉を発しているのかなどを教師がよく観察し，一人一人の気付きを見取っていくことがとても大切である。本単元においても，何気ない一言の中に，気付きの質の高まりをとらえることがあった。また，「どうしてそう思ったの？」と問い返してあげることも教師の手だての１つである。気付きの質の高まりを見取る有効な方法，手だてについて考えていきたい。
・お話を想像して作る活動は，個人差が著しい。獲得した気付きをもとに，上手にストーリーを考えてお話を作る児童と，１コマ１コマの絵が描けても一連のストーリーになっていない児童もいた。しかし，交流によって刺激を受け，上達していく児童もいた。交流のさせ方も含め，手だてをどうするかも今後の課題である。

〈参考・引用文献〉

文部科学省　『小学校学習指導要領解説生活編』日本文教出版　2008
柳澤麻里　「気付きの質を高める生活科学習指導の在り方－活動や体験の振り返りを通して－」2009
http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/publish/ki/pdf1/kk36/seikatuka.pdf
内藤博愛　『気付きを深める生活科授業の創造』明治図書　2006
朝倉　淳　『子どもの気付きを拡大・深化させる生活科の授業原理』風間書房　2008
宮本千鳥　「思考力・表現力を育成する指導の工夫～思考の深化表を基にして～」
2008年度広島県生活科・総合的学習教育学会発表資料　2008